



OVERSEAS

Republic of the Union of Myanmar

— ミャンマー連邦共和国 —

海外事情



ミャンマーでの暮らしと仏教



青山 健 AOYAMA Tatsuru
復建調査設計株式会社 / 国際事業部 / 副部長

ミャンマーの概要

皆さん、ミャンマー連邦共和国がどんな国かご存知でしょうか。今では最後のフロンティアと呼ばれ、日系企業をはじめ様々な国から投資が行われ、多くの外国人が入ってき

ています。

国土面積は日本の約1.8倍ですが、人口は5,000万人強と半分以下で、主産業の一つである農業、特に稲作が盛んです。海に面する南側以外を山で囲われていますが、南側から中央部にかけては平坦な地形を呈しており、そこで稲作が行われています。

ミャンマーはヤンゴン、バゴー、マグウェ、エーヤワディ、マンダレー、サガイン、タニンダーリと言う7つの管区と、モン、カヤー、カチン、シャン、カレン、チン、ラカインと言う7つの州で構成され、管区にはミャンマー族、州にはそれぞれの民族が主に居住しています。

気候は基本的に5月中旬～10月中旬の雨季、10月中旬～3月中旬の乾季、3月中旬～5月中旬の酷暑期ですが、北部の山岳地帯は乾季の時期に雪が降ることがあります。

首都はネピドーですが、旧首都であるヤンゴンは商業の中心地で、最も人口の多い都市です。

ミャンマーの人達

ミャンマーの人達は基本的に温

和でまじめな性格です。学校を卒業しても働きながらまた別の学校に通う若者も多くいます。ただし残念なことに、一度に違う作業を並行してすることが苦手で、仕事上では日本人と比べて細かな役割分担となっている場合が多くあります。

肌の色は褐色系の人が多いですが、インド系の人にはさらに黒く、中国系の人には色白の人がおり、周辺国からの移住やその混血が多いことがうかがえます。

言語はミャンマー語が公用語ですが、少数民族がいる各州ではそれぞれの言語が使われます。特にシャン語はタイ語と非常に似ており、シャン人とタイ人が普通に会話しています。

宗教はほとんどの人が仏教を信仰していますが、その他にイスラム教、ヒンズー教、キリスト教などを信仰している人がいます。それらの宗教は地域と密接な関係があります。

ミャンマーの子供や女性達は、顔にタナカという柑橘系の樹木の木片を擦ってできた粉を水で溶いたものを塗っています。これは伝統的な化粧品で、日焼け止めや美肌効果



タナカを塗った女性。前にはタナカの木とそれを擦る石版



タナカを塗った子供達

があると言われ、やや柑橘系の香りがします。そして、これを塗っていると涼しく感じるそうです。

生活に密着した仏教

ミャンマー人の多くは仏教を信仰しています。小さい時から仏教に関する教育を受け、僧院に入ります。一生のうちでいたい3回僧院で学び、大人、子供、男性、女性に関係なくみんな頭の髪を剃っています。大人達は、祝日などでまとまった休みがあるときに僧院で学んでいるようです。僧院では、仏教以外の学問教育もあり、学校に通えない貧しい子供達も教育を受けることができま

す。そのため、識字率が95%以上と周辺他国に比べ高い割合となっています。

仏教の教えの中に輪廻転生という考えがあり、死んでもまた生まれ変わることができる、と強く信じています。特に生きているうちに徳を積み、いい条件で生まれ変わることができる、と信じています。そのためお金がないにも関わらず僧侶の托鉢に快く応じ、僧院やパゴダ(ミャンマー様式の仏塔)の建設や修繕などに寄付をしています。托鉢をもらうために僧侶が列をなしている光景は街中でよく見かけますが、これだけの僧侶全員に渡すのかと

驚くことがあります。また、鳥や動物にエサを与えるなどの徳を積む行為はごく当たり前のことのように行われています。

2008年5月2～3日にかけて大型のサイクロン・ナルギスにミャンマー国土が襲われ、推計13万人を超える死者・行方不明者が発生しました。特に上陸したエーヤワディ管区での被害は甚大で壊滅状態となりました。弊社でも義援金を募って被災地へ支援物資を届けましたが、略奪などの混乱は一切なく、みんな静かに列をなして物資を受け取っていました。これも仏教の教えによるものだと思います。



ミャンマー地図 (出典:一般社団法人日本ミャンマー文化産業振興協会)



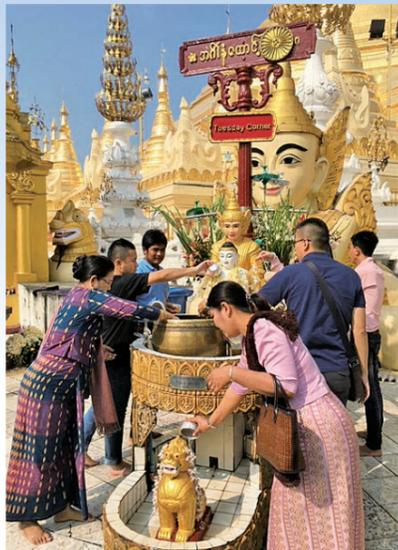
静かに待ちながら支援物資を受け取る人々



シュエダゴン・パゴダ



パゴダで過ごす



自分の曜日の像に水をかける

ミャンマーには多くのパゴダがありますが、象徴とされるのはヤンゴンにあるシュエダゴン・パゴダです。仏塔の高さは約100mと大きく、歴史は2,500年とも言われており、幾度となく修繕補修を繰り返して現在まで維持されています。シュエは金、ダゴンヤンゴンの古い呼び名を意味しています。ヤンゴンは今でもしばしば停電することがありますが、このパゴダのライトアップだけは絶対に消えることはありません。ここには多くのミャンマー人や外国人が訪れており、若者のデートスポットの一つにもなっています。また週末に家族でお弁当を持ってシュエダゴン・パゴダを訪れ、お祈り、お喋り、昼寝などをしながら一日中過ごすこともあります。

八曜日占い

ミャンマーには八曜日占いという仏教に基づく占星術があります。これは生まれた曜日によりその人の性格や人生観、他人との相性を判別できると強く信じられています。そのため、日本でよく血液型を聞くように、ごくあたりまえに何曜日に生まれた

かを聞いています。八つに分けられているのは、ビルマ暦にちなんでいるからだそうです。

八曜日には守護動物があり「月曜は虎」「火曜はライオン」「水曜の午前は牙のある象」「水曜の午後は牙のない象」「木曜はネズミ」「金曜はモグラ」「土曜は龍」「日曜は鳥」とされており、パゴダの周りにこれら八つの動物の像があります。みんな自分に該当する曜日の像に願いを



昔ながらの市場

込めながら水をかけています。ちなみに私は金曜日のモグラで、「感受性が強い」「冷静かつ客観的」「欲望に従順(自己中心的)」などと言われています。

仏教はミャンマーの人達にとって切り離すことのできないものであり、生活の一部となって大人から子供までみな心から信じ、大事にされています。そのため、仏教を侮辱するような行為は逮捕されることがあります。以前、外国人がお釈迦様の像をピンク色に塗ってお店に飾っていたということで逮捕されました。

ミャンマーでの暮らし

私が暮らしているヤンゴンでは、大型スーパーやコンビニエンスストアなどがあり特段不便を感じませんが、ミャンマーの人達にとっては値段が高いようで、昔ながらの市場で食料品や生活用品を買う人が多くいます。1988年9月～2011年3月の軍事政権時代にはスーパーなどはほとんど無く、みんなこのような市場で物品を購入していました。我々日本人にとっては衛生面などを気にして



オートバイのいない渋滞



ミャンマーの食べ物

しまいますが、彼らにとっては普通の事で昔の日本も同じような感じであったのではないかと思います。

軍事政権時代には車の関税が高く、非常に高価であったため往來する車両は少なく、渋滞することはありませんでした。しかし、民政化により多くの輸入車が入ってきたことで、交通渋滞が深刻な問題となってきました。特に日本車の人気は高く9割程度を占めています。そのため、日本語の店名や会社名などがそのまま書かれている車両をよく見かけます。

ミャンマーの車両は右側走行ですが、日本からの輸入車はそのまま右ハンドルで運転します。我々は運転が難しいように感じますが、ミャンマーの人達はそれが当たり前のようです。最近では政府の意向で日本の中古車を輸入することができなくなりましたが、ミャンマーの人達は右ハンドルでも安い日本の中古車を買いたいようで、たまに知り合いが愚痴をこぼしています。

また写真を見てお気づきかもしれませんがオートバイが一切写っていません。これは軍事政権時代に政府高官が自分の車両が走行しづらいためヤンゴン市街地でのオートバ

イの走行を禁止したためです。ヤンゴンの渋滞風景は、他の東南アジア諸国のように車とオートバイが入り乱れた状況とは大きく異なります。

ミャンマーの食べ物

ミャンマーの食べ物は基本的に油を多く使います。これは冷蔵庫が無い時代に気温が高くても腐りにくくするための工夫です。肉や魚の油煮込み風の食べ物が多く、表面に油が層をなしています。日本人の我々には油がきつすぎて油を落としながら食べますが、ミャンマーの人達はその油をご飯にかけて食べます。通常お店で食べる時などは、何品かのおかずとスープをオーダーしますが、スープはどんぶりのような器に一つのスプーンのみが付いてきます。この一つのスプーンをシェアしながらすすっている光景をよく見かけます。外国人には小さい器を渡して先に取り分けてくれます。

ミャンマーの人達は炭水化物系の食べ物を好んで食べます。私があるローカルのホテルに泊まった時の朝食が焼き飯、焼きそば、焼きビーフン、食パンと目玉焼き、果物といったかなり偏ったメニューのこともありました。他の東南アジアの食べ物

と同様にスパイシーな食べ物も好まれています。青唐辛子を使った料理が多く、サラダや炒め物などによく使われ、空心菜の炒め物とは同じ色なので間違えて食べてしまい、大変な目に合うことがしばしばあります。ミャンマーの食べ物は個人的には全体的に美味しいと思いますが、油の量が多いので好き嫌いがはっきりと分かれると思いますし、毎日ばかりと感ずります。

願い

私は10年近く、年間のほとんどをミャンマーで過ごしており、日本からミャンマーに戻った時にはほっとするような気がします。悪いところもありますが全体的にミャンマーでの生活は満足しています。今後も外国からの支援や投資などで急速に発展していくと強く感じ、ミャンマーの人達の暮らしがより良くなっていくことと思います。しかし残念なことに、ロヒンギャ問題や少数民族の武装勢力との争い、貧富の格差などまだまだ多くの問題を抱えています。早期に解決できることを願っています。

※本稿は2021年2月1日以前に書かれたものです。